

科目名称	表現のための英語 I ⑤		
担当教員	岡村 光浩		
授業形態	講義	区分名	コミュニケーション
単位数	2.0	年次	2
履修制限等	予備登録実施		
開講年度・学期	2017年度 前期	授業コード等	10506052
授業目的・方針	英語をコミュニケーションツールとして発信するプロダクトとして、CM、映画、テレビ番組などの映像、その他デザイン、アートの世界、歌などのメディアを教材として使用し、どのように英語が表現され、発信されているかを学ぶ。そしてこれらの手法が自分たちの作品制作や表現活動にどのように応用できるかを考える。(以上「表現のための英語」全クラスの共通テーマ) / このクラスでは、日本のポップカルチャー(まんがやアニメ、J-Popばかりではなく、キャラ弁、食品サンプル、ゆるキャラ、演芸、宝塚、映画などの幅広い話題)について、海外から発信されたネット上の生の記事を読むことで、他者の視点による文化理解のあり方を学ぶ。		
到達目標	作品制作や表現活動について英語で語れる「引き出し」を増やす。		
授業内容	1 : オリエンテーション(授業のねらい、テキストについて、学習の進め方、その他) / Unit 1: Learning Japanese from Scratch and My Love for Japanese Culture 2 : Unit 2: Manga 101 — Basic Walk-through of the Manga World 3 : Unit 3: Kaw aii — Japan's "Soft Power" 4 : Unit 4: About Anime and Censorship 5 : Unit 5: In Japan, Food Can Be Almost Too Cute to Eat 6 : Unit 6: Fake Food Japanese Style That Looks Good Enough to Eat 7 : Unit 7: Japan's Most Dangerous Game — Rock, Paper, Scissors 8 : Unit 8: Japanese Comedy — What's So Funny? 9 : Unit 9: Takarazuka 10 : Unit 10: Cosplayers Expected in Doves for Anime Expo 11 : Unit 11: Fukubukuro / Lucky Bags — Shibuya 109 12 : Unit 12: J-Pop 13 : Unit 13: Japan's Biggest Pop Star is not Human 14 : Unit 14: Dolly Daydreams in Anime — Kaw aii! Jenny & Super Doll Licca-chan 15 : Unit 15: Feminism in Horror Film — Dead Wet Girls and Onryo / まとめ		
授業時間外学習	中学・高校英語、特に基礎的な英文法と語彙を徹底的に復習しておくことが望ましい。テキストの各章はインターネットから集めた記事なので、出典のWebコンテンツや、そこから更に(日本語でも構わないので)リンクを辿って関連情報への理解を深めたり、図書館で関連書籍や映像資料などに当たってみることを奨める。		
評価方法	平常点(宿題・予習状況・受講姿勢)・小テスト/提出課題・定期試験により総合的に評価する。		
使用テキスト	内田均ほか編著『ポップカルチャーで日本を表現』(J-Pop Culture on the Net) 三修社、2015年		
参考テキスト	石黒昭博 監修『総合英語Forest』第7版、桐原書店、2013年 レイモンド・マーフィー『マーフィーのケンブリッジ英文法(初級編)』第3版、ケンブリッジ大学出版会、2013年 他に担当講師より指定、またはプリント等を配布する場合がある。		
各自準備物	英和/和英辞典(紙版推奨): ジーニアス(大修館)・ウィズダム(三省堂)・プログレッシブ(小学館)等		
実習費			
その他	1. 欠席は原則4回まで(予備登録期間含む)。なお遅刻30分以上は欠席扱いとする。 2. 授業内容についてはクラス毎の進度等により調整する場合がある。その他詳細は担当講師より指示する。		